

令和7年度 第二回協働会議 要旨

1 日 時 令和8年2月18日(水) 午後2時から3時半まで

2 場 所 岩城少年自然の家 大研修室

3 出席者

(1) 委員

三浦浩信委員(会長)、三戸智佳委員(副会長)、相澤一浩委員、齋藤隆一委員、三浦雄司委員、菅原雅文委員、阿部裕子委員、山本正樹委員

(2) 県教育庁生涯学習課

佐藤賢輝社会教育主事

(3) 事務局(岩城少年自然の家)

岩見誠一所長、小幡進副主幹(兼)総務チームリーダー、佐々木伸主任社会教育主事(兼)指導チームリーダー、伊藤大翔主事

4 議事概要

(1) 開会

(2) 県生涯学習課長挨拶(代読 佐藤賢輝社会教育主事)

(3) 岩城少年自然の家所長挨拶

(4) 出席者紹介

(5) 議事(議長:会長)

①報告

○施設の運営について

○施設設備の状況について

○利用状況及び主催事業について

②協議

(6) 閉会

5 協議の概要

委員 | ウサギコースの改修は大変だと思う。改修は長期的に考えなければならないと感じた。ウサギコース改修の予算について、どの程度要望しているか教えていただきたい。

事務局 | ウサギコースの復旧は、予算をかけずに復旧作業を行った。橋があった場所に関しては、橋ではなく、はしごを設置する方法を考えている。復旧には多額の予算を必要とする。建物が老朽化し、県に対して2億を超える修繕要望をしている状況であり、優先順位をつけて検討していく。

所長 | 当施設では、秋田市のマンタラメでAKITA Trail Run Festivalという大会を10年以上運営している団体の方々と一緒にウサギコースの改修に取り組み、管理方法やどのルートを歩いた方がよいかなどアドバイスをいただいた。木造橋は数年で腐ってしまうので、腐食に強いアルミ製脚立の使用を検討している。2台準備してはしご状にし、橋の両端から下ろし、はしごを渡すように板を置き、その上を利用者が渡る計画である。トレイルランニング団体の中に小学生がおり、小学生でも安全に渡ることができることを確認した。常時設置はせず、ウサギコースを利用する団体がいる場合のみ、当施設の職員が利用前に設置し、利用後は撤去することで維持管理していく予定である。

- 委員 活動の際に、クマ撃退スプレーを携行しているそうだが、高価なもので、噴射距離にも限界があるようである。この点についてお考えを聞かせていただきたい。
- 事務局 クマ撃退スプレーは高価だが、消費期限があるので順次更新していかねばならない。次年度はクマ出没時を想定して、実際に職員がクマ撃退スプレーを噴霧し、操作方法を確認する研修を行う予定である。
- 所長 施設の周辺を電気柵で囲ってほしいという願いがある。そうすることでその中だけは子どもたちが安心して屋外の活動をすることができるようになる。しかし、費用が高額なため、設置は難しいと感じている。団体が屋外活動をする日の活動時間に合わせ、積極的に音響を鳴らしてクマを遠ざけるようにしている。普段から音響を鳴らすとクマはその環境に慣れてしまう。大学の研究者によると、クマ撃退スプレーがあったから助かったとの報告がある。クマの攻撃の瞬間に、対抗できるものがあることが重要である。実際にクマ撃退スプレーを使用したことがないと、いざ、クマに遭遇した場合、操作することは困難だと言われている。当施設職員がクマ撃退スプレーを携帯するという事は、クマとの遭遇を前提にして、利用者の命を守る意思があるということである。
- 委員 来年度要望予算の中に放送設備設置があるが、防災無線のようにクマが出没したことをアナウンスする設備ということか。
- 事務局 ウサギコース以外の散策路コースとキャンプセンターの一带を網羅する、音響放送設備である。付近の騒音にならないよう音圧も検討し、要望している。
- 委員 クマ撃退スプレーの話だが、このような施設でクマ撃退スプレーを持ち、事業を行うということは当たり前になってきていると思う。当方の認定ガイドにもガイド時の所持を口頭で推奨している。
- 委員 おとなの遠足について、今年度は七座山や真人山、南由利原など、岩城地区から離れた場所を企画しているが、岩城地区周辺あるいは由利本荘市に絞って事業を考えることも岩城少年自然の家の在り方なのではと思う。
- 事務局 貴重なご意見として承る。これまで行ったことのない場所や変化に富んだ場所にするなど工夫している。地元由利本荘市も含め検討していく。
- 所長 当施設の事業は旅行会社のツアーではないため、例えば真人山の場合は植生であったり、地元の気候・風土、産業との関連などを学ぶことができるような計画を立てた。わんぱくキャンプでは、亀田地区で子供たちに茶道を経験させたり、県立総合射撃場でビームライフルを体験させるなど、岩城地域の活動を取り入れたりしている。これらを大人の活動にも取り入れるというのはまた新しい視点であり、参考にさせていただく。
- 委員 岩城少年自然の家のホームページを見ると全体の散策路コース図が載っていないので公表してはいかがか。
- 所長 散策路コース図はすでにある。利用していただいている団体には散策路コース図を渡している。現在使用していないウサギコースの全体図はホームページに掲載していないが、当施設のホームページで、ウサギコースの一部を動画で視聴することができる。来年度使用を再開した際には、ホームページに散策路

コース図を掲載することを前向きに検討していく。

委員 岩城少年自然の家に、本日も当園の園児がお世話になっている。活動内容やクマ対策など柔軟に対応していただいていることに大変感謝している。こちらの申請書類について、もう少し簡素化していただければと思う。申込みの仮案を提出後、成案を提出することになっている。人数等変更がなければ成案の提出を不要とするなど検討をお願いしたい。双方の業務負担軽減にもつながると思う。

事務局 当施設を利用する前に、事前に提出していただく書類がある。書類は一つのファイルにまとめられており、人数等の変更がない場合も成案の提出をお願いしている。様式や提出方法など、次年度に向けて利用者の負担にならない方法を検討していく。

委員 潟上市で岩城少年自然の家を利用しているのは本校と大豊小学校の2校である。本校は一学年が80名前後で、今年度、岩城少年自然の家を利用した5年生はとても元気な子供たちである。利用後の子供たちの様子は、生き生きとしており、すごく楽しかったと話している。今年度、岩城少年自然の家ではたくさんさんの事業が計画されており、本校でも事業に参加している子供がいる。ここでの体験がもっと広がっていけばよいと思う。一人親家庭の親子が岩城少年自然の家の事業に参加された話があった。普段は子育てと仕事に苦労しているが、楽しい時間が過ごせたとの話だった。この事業がこういった手助けになることは盲点だった。自分のお子さんを大事にすることは大切だが、他のお子さんや親と何かをすることが苦手な人が多くなっていると感じている。学年レクリエーションにAAPを取り入れ、自分の家族以外と関わる機会をもう少し増やして、今後の学校経営に繋げていきたいと思う。

所長 新規事業のファミリーサップに参加していただいた保護者からの声だが、子供が通う学校の校長先生が、保護者へ岩城少年自然の家の事業の情報を提供しているという話があった。チラシを配付してくださる学校、チラシを必要な人が持って行く学校、掲示して下さっている学校など、色々な方法で対応して下さっている。各学校で取り扱い方は違うが、保護者の声からは、事業のチラシを見ていただいていることが分かり、うれしく思う。

委員 新規の事業が多数あり、前向きな取り組みでよいと思う。児童生徒数が減り、施設の存在意義を見つめ直す中で対象年齢を広げていくことは必要だと思う。インスタグラムやインターネットなどの利用の他に、どのようにPRしているのか教えてほしい。

所長 先日、道の駅象潟で日本酒講座のチラシを見つけたので記事にしたいと秋田魁新報社の記者の方から電話をいただき、掲載を依頼した。他にも協賛いただいている秋田マリーナ様や本荘マリーナ様、道の駅岩城様、道の駅おおうち様、ジオパーク様関連施設等に置かせていただいている。秋田テレビ様やFM秋田様に番組で紹介していただいたりと非常にたくさんの方のご協力をいただいて、広報活動に努めている。

委員 各学校にお願いして、チラシを配ることもあるのか。

委員 本校では保護者あてのメールで周知している。

委員 配布されるかどうかは学校や地域などによっても違うものか。

所 長 市町村教育委員会によって、経路方法や周知に要する時間が違う。子供や保護者を対象とした事業においては、学校を通じた周知の力は、ものすごく高いものがある。

委 員 今年度、クマの出没が2件あったようだが、建物の近くに出たのか。

事務局 敷地近くである。6月の一週間ほどの間で出没が2件あった。すぐに利用団体に伝え、屋内の活動に変更した。

委 員 岩城少年自然の家は、学校だけを対象とせず、スポンサーを見つけ、たくさんの事業を行っていることに敬意を表す。本校でも宿泊学習やP T C Rでお世話になっている。クマについては、本校も対応に苦慮している。本校で岩城少年自然の家を利用している時にクマが出没した。屋内での活動となってしまう残念だったが、それでも子供たちは充実している様子が見受けられた。安心して活動できる日が来たらよいと思う。

委 員 クマについては、本校でも活動を制限しなければならない場合があった。そうした環境の中でも自然体験が充実しているということは素晴らしいことだと思う。先日は、本校の防災学習会に出前講座として、職員の方に来ていただいた。子供たちは興味を持って取り組んでいた。今後お願いしたい。